

疫病退散へお神酒

井出醸造 神社でラベル祈念

日本酒「甲斐の開運」の銘柄で知られる井出醸造店（富士河口湖町船津、井出與五右衛門社長）は4月上旬から、富士河口湖町勝山の富士御室浅間神社で祈念したラベルを貼ったお神酒「富士北麓の御神酒」の販売を始める。疫病退散や地域活性の願いを込めて初めて企画した。

同神社が一般販売用のお神酒の製造を承認するのは初めてという。富士山の伏流水で仕込んだ本醸造で、1本720ミリ入り。新型コロナウィルスの早期収束を願つて同神社境内に祭られている、なで富士山の女神「木花開耶姫命」にちなんだ民話も記載している。

6千本限定で製造し、県内のスーパーや酒販店に出荷。公式オンラインサイトでも販売する。価格は1本1350円（税込み）。



富士御室浅間神社で清めたお神酒「富士北麓の御神酒」

神事の後、宮司に完成を知らせる井出與五右衛門社長（左）
＝富士御室浅間神社

来年以降もラベルやパンフレットを変更し、富士山につわる他の神社でおはらいして製造を続ける計画。井出社長は「お神酒が疫病退散や地域の活性化につながり、再び観光客が増えてくれればうれしい」と話している。

（秋田大揮）

に設置したカメラの映像を見ながら操縦。油圧式ショベル

ス感染症の影響でテレワークの移住について「興味・関心」戦略は新型コロナウイルスの大流行によって、新たな居住形態として注目される傾向にある。特に、都心部での高騰する不動産価格や、通勤時間の削減による時間的余裕など、多くの人々が移住を検討する要因がある。一方で、移住に関する課題も浮上している。例えば、移住先での雇用環境や子育て環境、公共交通機関の利用状況など、実際の生活環境への適応が課題となる。また、移住による社会的孤立感や、既存の社会ネットワークとの離断感など、精神的な面での影響も考慮する必要がある。今後、これらの課題を克服しながら、安全で快適な移住環境を実現するための取り組みが求められる。